



市指定有形民俗文化財

まがい
磨崖石仏群
(美里町日南田)

バス…三重交通バス「日南田」下車徒歩5分
車…伊勢自動車道津ICから車で20分

安濃川支流の穴倉川が、長谷山の北すそを回り込むように流れる美里町日南田地区の川の中に、幅3.3m、高さ2.6mの巨岩があり、ここに室町時代後期の制作とされる「日南田の六体地蔵」が彫り込まれている。大正時代の地誌である『安濃郡誌』によると、長野城に立てこもった仁木氏を追討する土岐頼康の軍勢がこの地で敵軍の奇襲に遭い、最後まで戦い亡くなった6人の武士を弔うため、地元の人々がこの地蔵を彫ったとの言い伝えもある。

一般に六体地蔵（六地蔵）は集落の出入り口に設けられ、集落の安全を願う村人の信仰を集め、今も各地にその姿が見られる。仏教でいう六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上）に迷い苦しむ人々の救済を願いまつられた六体の地蔵菩薩を拝むことで、集落の安全を祈願したものと考えられる。近くには「日南田の七体地蔵」と呼ばれる磨崖仏があり、両者を合わせて「磨崖石仏群」として市の文化財指定を受けている。

石仏群の近くには、川の流れが緩やかな夫婦淵と呼ばれる淵がある。この淵の底には水神が住み、その怒りに触れると干ばつになるとの言い伝えがあり、昔から地域の人々にあがめられてきた。大正時代には、大干ばつの折に実際に村人が100日間、淵の水神に祈願したといわれる。

梅雨も近く、豊かな水の流れに集落の安全を願った人々の思いが溶け込んでいるようである。

（「広報津」平成21年6月1日号）

